事務事業評価表

1．基本事項

作成日　令和02年06月24日（水）

事務事業	救急活動事務	担当課	花園消防署	担当係	花園消防署	管理番号	4525
第2次総合計画		事業区分	■ 自治事務	□ 法定受託事務 →	対象拡大 有□ サービス拡充 有□		
行政計画分野別名 大項目	200004 安心とやすらぎを感じられるまち（暮らし・環境）	根拠法令個別計画等	・消防法 ・消防組織法 ・深谷市救急業務に関する規則 ・深谷市救急業務取扱細則 ・救急救命士法				
中項目	200001 備えができ、安全・安心なまちづくり						
小項目	200002 消防・救急体制の充実						

事業概要	管内で発生した各種災害等により負傷した傷病者の状態を的確に判断し、必要な処置を施して適切な医療機関に搬送する。 救急資器材の整備及び救急隊員の訓練を実施するとともに、市民に対する応急手当の普及啓発に努め、救命率向上を図る。
目的 ※何のために	傷病者の救命率及び社会復帰率の向上。
対象 ※誰・何を対象に	市民の生命、身体及び財産。
手段 ※どのように	各種災害現場までの現場到着時間と現場滞在時間（病院連絡時間）の短縮を図る。
成果 ※何を求めるか	早期に医療機関へ搬送することで、傷病者の救命率と社会復帰率の向上を図る。
執行体制	■ 市職員　□ 一部委託　□ 全部委託　□ 指定管理　□ 市民ボランティア　□ ＮＰＯ民間団体　□ その他（　　）

事務事業を構成する予算事業	会計区分	款	項	目	細事業名	前年度決算額（円）
		00	00	00		0
		00	00	00		0
		00	00	00		0
		00	00	00		0
		00	00	00		0

本事業の主な業務	
・ 救急活動等災害対応業務	・ 救命講習の実施
・ 救急資器材の維持管理業務	・
・ 救急訓練の立案、調整、実施に関する業務	・
・ 応急手当普及啓発業務	・
・ 救急活動事例研究	・
・ 救急活動記録票、統計及び即報の作成業務	・

2．事業費（投入コスト）

単位：円

区分			平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	
年度別計画								
事業費	予算（現額）		0	0	0	0	0	
	決算額		0	0	0	0	0	
	財源内訳	国支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		他特定財源	0	0	0	0	0	
		一般財源	0	0	0	0	0	
人件費	従事職員数（人）		0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	人件費相当試算 ※1		777,900	778,200	786,100	814,800	814,800	
			0	0	0	0	0	
（総事業費試算）			777,900	778,200	786,100	814,800	814,800	

※1　人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

事務事業評価表

３．評価指標

グラフ表示	区分	指標名		単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標なし
■	活動指標１	救急出場件数（暦年）	目標値	件							■
			実績値		2,807.00	2,833.00	2,736.00	0.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		救急出場件数であり目標値の設定に値しない。							
		出場件数									
■	活動指標２	訓練・研修回数	目標値	回	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	□
			実績値		20.00	20.00	20.00	0.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		年間訓練計画に基づく目標値。（実施回数を計上。１回が数か月に渡るもの有。）							
		実施回数									
□	活動指標３	資器材点検実施率	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	□
			実績値		100.00	100.00	100.00	0.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		１００%の資器材点検を目標とする。							
		実施日／３６５日×１００									
■	成果指標１	資器材常時使用可能率	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	□
			実績値		100.00	100.00	100.00	0.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		車載されている全資器材常時使用可能率。							
		使用可能数／全資器材×１００									
□	成果指標２	現場到着時間	目標値	分	0.00	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00	□
			実績値		8.55	8.79	9.05	0.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		救命率が著しく低下していく時間（７．０分）							
		覚知から現場到着までの時間									
□	成果指標３	病院収容所要時間	目標値	分	0.00	43.60	43.60	43.60	43.60	43.60	□
			実績値		50.39	50.61	50.73	0.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		（参考）埼玉県平均病院収容時間４３．６分（平成２８年数値）							
		覚知から病院収容までの時間									

４．観点別評価　（A：目標値どおり（以上）　B：ほぼ目標値どおり　C：目標未達成　ー：目標値の設定がないもの）

活動 （意図した活動を行っているか）	A	目標が設定できないものは、活動指標の数値の推移を説明 傷病者の観察・処置を適切に行い、医療機関へ搬送した。 大規模イベント等での多数傷病者災害にも迅速かつ適切な対応ができるように、救急隊だけでなく各隊との連携訓練や救急救命士の技術向上への訓練を実施した。
成果 （意図した成果が上がっているか）	B	目標が設定できないものは、成果指標の数値の推移を説明 管轄外への出場が多く、また、新型コロナウイルス感染症が発生し医療機関の受け入れ体制が困難なことから昨年度と比較し現場到着までの時間と病院収容所要時間が延伸したが、始業前及び毎週の積載品点検を実施し資器材への精通と維持管理を行うことで、災害現場において最大限の救急活動を実施した。
効率性 （効率的に事務を行っているか）		目標が設定できないものは、効率指標の数値の推移を説明

評価者	花園消防課　救急係長　茂木健男　福田理絵

５．前年度改善改革プラン達成状況

前年度 改善・改革案	増加する救急出場件数に伴い、医療機関への収容に掛る時間短縮に努めているところであるが、多種多様化する災害事案に対応するため、他隊との連携活動訓練を行い知識・技術の向上を図る。また傷病者、関係者及び医療機関の医師との、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を各種研修や訓練を通じて向上を図る必要がある。
達成状況 及び その効果	他隊との連携訓練や勉強会を行うことにより、新型コロナウイルス感染症による救急事案に対しても統一した感染防止対策を行うことができ、安全に救急活動を行うことができた。また、救急隊員のコミュニケーション能力の向上に向けた訓練を通じて、様々な年代の傷病者や関係者からの情報収集がより円滑に行うことが可能となり、救急活動の充実を図れた。

事務事業評価表

６．所属長評価（今後の方向性）

事務事業	救急活動事務	担当課	花園消防署	担当係	花園消防署	管理番号	4525

■ ① 現状のまま継続
□ ② 見直して継続 →
□ ③ 拡充・重点化（コスト投入）
□ ④ 目的達成による終了
□ ⑤ 廃止を検討

□ 委託化等の検討
□ 成果向上のための改善
□ 効率化のための改善
□ 事業規模の縮小
□ 他の事務事業と統合

評価の内容説明

市民の安全・安心を確保するうえで欠かすことのできない活動であり、法令の規定に基づいた運用を図っている。今後も、新型コロナウイルス感染症対策を万全に実施しながら事務を継続していく。

評価者	花園消防署長兼花園消防課長　太田原健二

上記を実施するための具体的な取り組み内容は？

７．改善改革プランと今後の課題

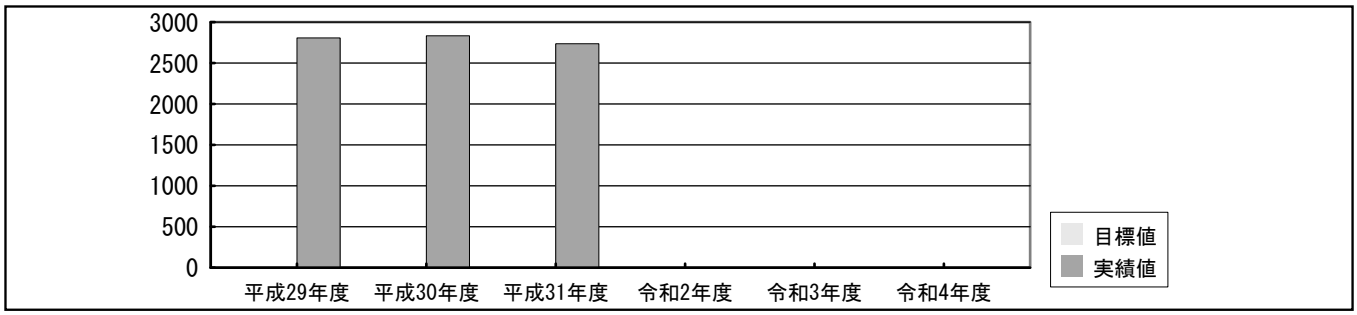
改善・改革案	従来の救急事案だけでなく、新型コロナウイルス感染症に対する感染防止等を考慮した新たな救急活動が今後も求められる。そのため、救急現場だけでなく救助や火災現場においての感染防止対策も見据え、各隊との情報共有や勉強会を含む連携訓練を継続的に実施していく必要がある。

８．今後の課題(年度別計画等により実施する取り組み等)

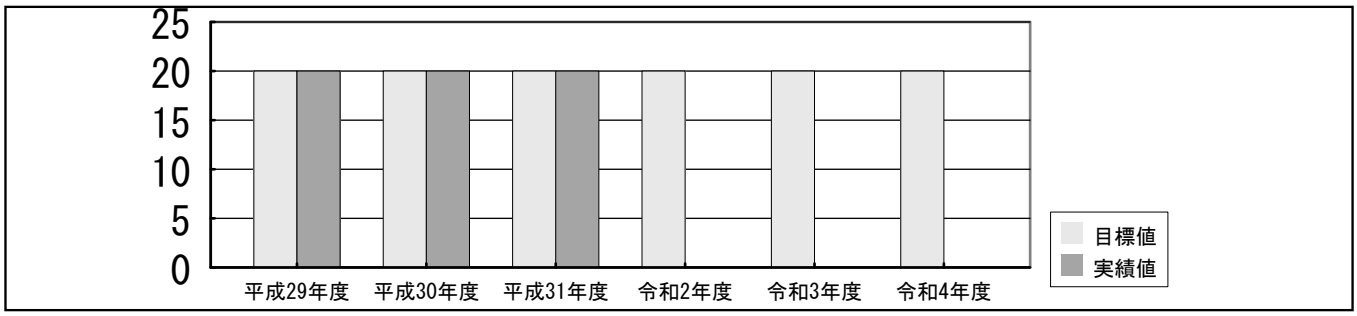
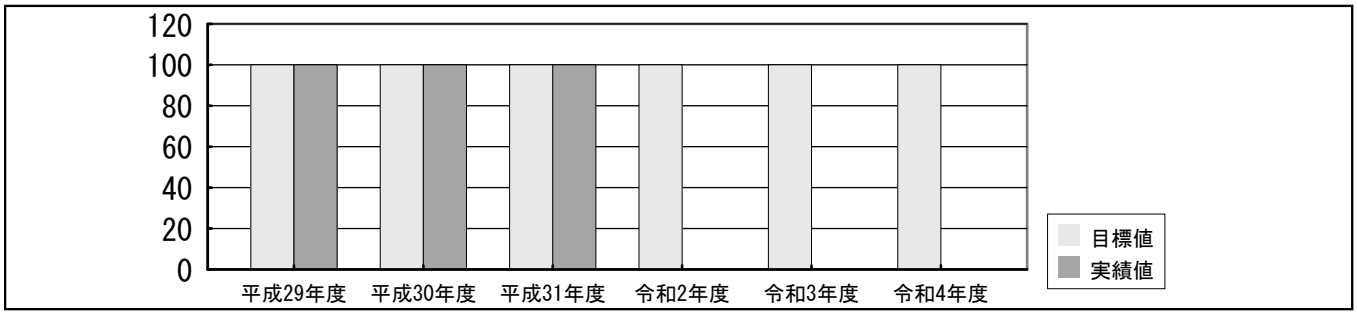
今後の課題	救急隊員の現場処置や判断能力だけでなく情報収集、伝達能力向上に向けた人材育成を今後も継続し、医療機関への収容時間短縮を目指す。また、多種多様な救急事案に迅速かつ安全に活動を実施するため、今後も連携訓練を実施していく。

９．評価指標グラフ

区分	活動指標１	指標名	救急出場件数（暦年）



区分	活動指標２	指標名	訓練・研修回数



区分	成果指標１	指標名	資器材常時使用可能率